

報道関係者各位

1 練馬区立美術館・貫井図書館改築等基本設計業務 設計者決定についてのご案内



選定プロポーザルにおける設計者の提案内容（外観イメージ①）

2 練馬区立美術館 新美術館長内定についてのご案内

※本件に関するお問い合わせは下記担当者までお願いいたします。

練馬区 地域文化部 美術館再整備担当課長 稲永（いななが） 03-5984-1301

BIJUTSU-SAISEIBI@city.nerima.tokyo.jp

1 練馬区立美術館・貫井図書館改築等基本設計業務 設計者決定についてのご案内



選定プロポーザルにおける設計者の提案内容（外観イメージ②）

練馬区立美術館・貫井図書館改築等基本設計業務の設計者が、 プロポーザルにより(株)平田晃久建築設計事務所に決まりました

■プロポーザルの概要

練馬区立美術館・貫井図書館（練馬区貫井1-36-16）は、西武池袋線中村橋駅から徒歩3分の利便性の高い地に、合築施設として昭和60年（1985年）に開館し、子どもから高齢者まで多くの方々に文化芸術・生涯学習の拠点として親しまれてきました。建物や設備の老朽化が進み、大規模な改修等が必要な時期を迎えていますが、7,500点を超える美術館収蔵作品の活用や大規模企画展の開催にはスペースが不足し、展示・収蔵環境やバリアフリーなど多くの課題を抱えています。そのため区は、大規模改修の機を捉え、隣接する東京中高年齢労働者福祉センター（サンライフ練馬）の敷地と合わせて、美術館・貫井図書館を改築し、それに伴い隣接する美術の森緑地も改修することとしました。

美術館および貫井図書館の改築にあたり、「練馬区立美術館再整備基本構想」「これからの図書館構想」において目指す新たな美術館、貫井図書館を創造できる設計者を選定するため、公募型プロポーザル方式による「練馬区立美術館・貫井図書館改築等基本設計候補者選定プロポーザル」を実施しました。秋元雄史美術館長を委員長とし、建築史家の三宅理一氏、建築家の西沢立衛氏、乾久美子氏、図書館学の専門家の野口武悟氏など、9名の選定委員で構成された「練馬区立美術館および練馬区立貫井図書館改築等基本設計候補者選定委員会」による審査の結果、参加表明のあった25者の中から(株)平田晃久建築設計事務所が設計者となりました。なお、次点候補者には西澤・畝森設計共同体が選定されました。今後、設計者の提案内容をもとに基本設計を進め、令和9年度（2027年度）のリニューアルオープンを目指します。

■敷地面積・延床面積（想定） ※（ ）内の数字は現況面積

- ・練馬区立美術館・貫井図書館（改築） 敷地面積：4,090.3㎡（2,246.2㎡） 延床面積：8,000㎡規模（4,358.5㎡）
- ・美術の森緑地（改修） 敷地面積：1,894.6㎡（変更なし）

■プロポーザルにおける提案課題

- ・課題1：まちと一体となった美術館
- ・課題2：コンセプトを実現する空間づくり、融合による相乗効果
- ・課題3：施設運営や利用者の視点に立った工夫

「美術館再整備基本構想」の3つのリニューアルコンセプト

- 1 まちと一体となった美術館
- 2 本物のアートに出会える美術館
- 3 併設の図書館と融合する美術館

「これからの図書館構想」の4つのコンセプト

- 1 世界の知と出会い、学びを豊かにする
- 2 練馬の文化を継承・発信する
- 3 知が交わり、創造を生み出す
- 4 情報へのアクセスを支援する

■設計者の主な提案内容

(株)平田晃久建築設計事務所の提案は、アートと本、人々、貫井の街をつなぐ新しい公共建築として「21世紀の富士塚／アートの雲／本の山」をコンセプトに、Shelter/Shelf/Shadeの三層構造を用いて、静と動を棲み分けた多様なバリエーションの空間をもつ多層的な建築となっています。

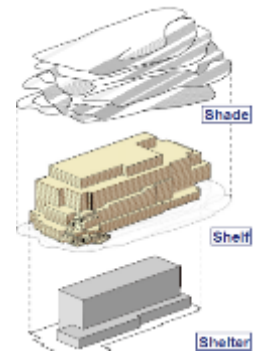
建物は4つのフロア（地下バックヤードを除く）で構成され、美術館と図書館が融合し、一体となったつくりをしています。

建物の中心にShelterと呼ばれる空間があり、その周りをShelfが包み、さらにShadeで覆われています。Shelterによって守られた空間は、貴重な美術品を扱う空間として、収蔵庫や展示室の機能をもった空間となっています。建物全体で重層的に包み込むことによって、温湿度管理や虫菌害対策を効率的に実施することができ、作品保護のための高レベルな環境を維持することができます。

ShelterとShelfのあいだの空間は、落ち着いた読書ができる空間やブック・アート・キッズスペースなどの図書館と創作活動を行うスペースなどが入り、さらにその外側、ShelfとShadeのあいだの空間は、エントランスホールやカフェレストランなど街や緑地に開かれた自由な活動ができる場所となっています。

建物の外観は、Shadeと呼ばれる階段状の屋根のようなものが幾重にも重なった姿で構成されており、緑地から連続的につながり、オープンスペースが立体的に拡張されたような風景をつくり出しています。

選定委員会の講評では、「大きな構想力を持ち、練馬の文化的文脈を一気にグローバルに展開し得るポテンシャルをもった案である。ローカルな人たちにとっても、インバウンドの人たちにとっても、建築的に新しい名所を提供する可能性を持っている。建築の中央部分に収蔵庫などのコアを置き、その周辺に開放的な中間領域となる空間をつくることで、調和させようとしている。中間領域の部分を立体化することで、公園での人々の活動が建築の外周を経てシームレスに繋がっていく。美術館と図書館の融合についても様々な形で展開できる余地があり、伸びしろがある。」と評価されました。



三層構造イメージ



エントランスゾーンイメージ

■設計者

平田 晃久（ひらた あきひさ）

2005年平田晃久建築設計事務所を設立。
京都大学教授。

（主な設計実績）

- ・2015年：太田市美術館・図書館
- ・2019年：八代市民俗伝統芸能伝承館
- （主な受賞歴）
- ・2012年：第13回ヴェネチア・ビエンナーレ国際建築展 金獅子賞（共同受賞）
- ・2018年：村野藤吾賞、BCS賞
- ・2022年：日本建築学会賞



■プロポーザルの経過

- | | |
|---------------|-----------------------------------|
| 令和4年（2022年）8月 | 実施要項公表 |
| 11月 | 一次審査（非公開） |
| 12月 | 二次審査（プレゼンテーション・ヒアリングは公開、最終審査は非公開） |
| 令和5年（2023年）1月 | 設計業務契約締結・設計者公表 |

■今後の予定

- 基本設計：令和5年（2023年）1月～12月
 実施設計：令和5年度（2023年度）～令和7年度（2025年度）
 工事：令和7年度（2025年度）～令和9年度（2027年度）
 リニューアルオープン：令和9年度（2027年度）

【問合せ】 練馬区 地域文化部 美術館再整備担当課長 稲永
 TEL：03-5984-1301 FAX：03-5984-1902 MAIL：BIJUTSU-SAISEIBI@city.nerima.tokyo.jp
 〒176-8501 東京都練馬区豊玉北六丁目12番1号

【区ホームページ】 <https://www.city.nerima.tokyo.jp/jigyoshamuke/jigyosha/oshirase/bijutsukanproposal.html>

2 練馬区立美術館 新美術館長内定についてのご案内

令和5年（2023年）4月より、練馬区立美術館の館長に伊東正伸氏が就任することになりました

令和5年（2023年）4月から、秋元雄史館長の後任として、国際的な展覧会など多く手掛けられてきた伊東正伸氏（現：独立行政法人国際交流基金文化事業部審議役）を美術館長に迎え、設計と並行して、展覧会などのソフト事業の更なる充実を目指します。



伊東 正伸（いとう まさのぶ）

1961年、静岡県生まれ。

毎日新聞社を経て、1991年より国際交流基金に勤務。「テイストと探究—1990年代の日本美術」展（1998-99年、ニューデリー・マニラ）、「写楽再見」展（国際巡回）ほか多数の展覧会を企画。ヴェネチア・ビエンナーレの日本参加にも携わった。横浜トリエンナーレの第1回展（2001年）起ち上げに参画、第3回展（2008年）事務局長。フランスにおける日本文化紹介事業「ジャポニスム2018」では、担当部長として若冲、琳派から工芸、建築、現代アートまで全14件の美術展をパリにおいて開催。現在、国際交流基金文化事業部審議役（美術担当）。